

「豊かな実を結ぶために」

ルカによる福音書 第8章4節～15節

説教 村上修平牧師

大阪教会の夏期聖書学校で次のようなゴスペルを覚えました。『豊かな人生の条件は、聖書の中に歴史の始まる以前から啓示されています。まことの神を敬い、罪を悔い改め、まごころつくしてキリストに従うことです』（詞:山内修一）ここに歌われているように、聖書には、豊かな人生の秘密が示されています。主イエス・キリストは人々に神の国の秘密を教える時、よく譬（たとえ）を用いてお話になりました。今日お読みしたのは、『種を蒔く人の譬』（ルカによる福音書8章4～15節）です。よく読むと、これは単なる農業の話ではないことが分かります。私達が意味ある生涯、豊かな実を結ぶ人生を生きるために、神の言葉をよく聞くことが大切であると語られているのです。

主イエスは、「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われました。私達も心の耳を澄まして神の言葉をしっかりと聞きたいと思えます。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。」（5～7節）この譬を最初に聞いた人々の中には農夫が多かったので、蒔かれた麦の種の様子をすぐに思い描くことができました。私の父親も田舎でお米をつくっているのだから、おいしいお米ができるまでに農家の人達がどれほど苦勞をしているか多少は理解できます。特に、夏場は雑草を抜くという大変な作業をコツコツと続けなければなりません。また、十分な日光と水がなければ、豊かな収穫は得られません。

この譬の中に、私達は自分自身の姿を見いだすことができます。私達は神の言葉を聞いてもすぐに忘れ、なかなか信仰にまで至りません。これは、悪魔が私達の心から信仰の種を奪ってしまうからです。また、一時は神の言葉を喜んで聞いても、根がないので、試練がおこると身を引いてしまいます。また、神の言葉を聞いても、途中で人生の思い煩いや自分の中の様々な欲望に押さえつけられ、信仰の成長が止まってしまいます。耳の痛い話ですが、誰にでも思い当たる節があるのではないかと思います。しかし、どうせ私の人生は失敗ばかりだと諦めないで

ほしいのです。この譬には思いがけない続きがあるからです。「また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」（8節）当時のパレスチナの農夫はみな貧しく、収穫もよくて10倍ぐらいでしたから、たった一粒の種が100倍の実を結ぶことなどあり得ない話でした。しかし、そんなあり得ない事が私達の人生にも起こると、主イエスは言われたのです。たとえ私達の人生が失敗続きであっても、主は私達に豊かな収穫を約束して下さるのです。

「良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである。」（15節）主イエスの言われる「立派な善い心」とは何でしょう？私達の心の中に、善い心が備わっているという意味でしょうか。あるいは、努力をしたら善い心を持てるようになるという話でしょうか。では、努力しても善い心を持ってない人はどうすればよいのでしょうか。

最近、映画『レ・ミゼラブル』が話題を呼んでいます。主人公ジャン・バルジャンは一個のパンを盗んだ罪で19年服役しました。刑期を終えても世間の風は彼に冷たくあたりました。ある夜、彼は教会の司教の所から銀の食器を盗みました。すぐに憲兵に捕まり、また刑場送りになるところ、司教は『この食器は私が与えたものだ』と言って、彼を無罪放免しました。その上、司教は高価な銀の燭台二つを彼に与えて、『あなたはもう悪人ではない。神はあなたの罪を赦されました。この燭台を使い、これからは正直に生きなさい』と言ったのです。これまで憎しみと人間不信の塊だった彼は、ただ一人彼を信じてくれる人に出会いました。そして、この出会いによって彼は生まれ変わり、自分の持ち物や命を捧げて人を愛するようになるのです。

主イエスは私達が罪を悔い改める前に、十字架の上で死なれ、私達の罪を赦されました。私達がまだ主イエスを信じる前に、主イエスの方から私達を信じて下さいました。主は今も『あなたは善い存在だ』と私達に語りかけ、私達の中に「良い土地」を望み見て下さいます。この主イエスの信頼に應える時、神の言葉は私達の中で豊かな実を結び、愛に溢れた人生を生きることができるようになります。

（記 村上修平）

